

水稲—たまねぎで 高収益大規模有機農業を目指せ!!

農林水産研究所

有機農業の普及、拡大を推進するため、水稲—たまねぎ体系で規模拡大技術の開発と環境評価を行いました。

規模拡大の条件には、①雑草対策は、水稲が機械除草+深水管理、たまねぎではマルチ栽培、②たまねぎの作業の効率化、軽作業化には小型機械化体系の導入、③労力分散には、多様な作型の組合せと規模の配分が必要です。

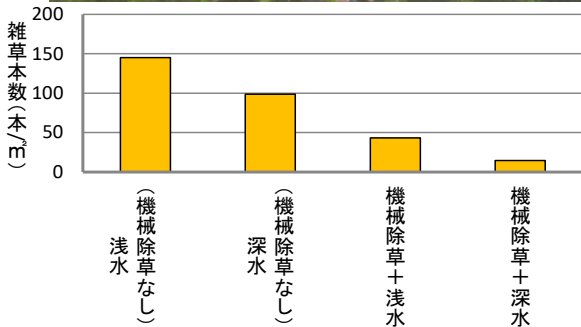
①雑草対策

●水稲は機械除草+深水管理が有効



雑草対策

水稲機械除草(3回程度)
⇒深水(10日・水深10cm)



有機水田での雑草発生本数
[早期あきたこまち、移植60日後調査]

●たまねぎはマルチ栽培が前提



②作業効率の向上と軽作業化のためのたまねぎの小型機械化体系



③水稲—たまねぎの作型の組合せ

作型	水稲品種	たまねぎ品種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
早期+セット	あきたこまち	シャルム	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
早植え+(超)極早生	コシヒカリ	トップゴールド305 貴錦、浜笑	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
普通期+極早生	にこまる	同上	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
普通期+早生	ヒノヒカリ	アドバンス	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
晩期+中晩生	ヒノヒカリ	ネオアース	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

④有機水田における生物多様性の向上



★労働力を考慮した作型の組合せにより、高収益大規模有機栽培が可能となります。